

# 落語を取り入れた授業の効果に関する一考察

M14E002

小田 雄仁

## 1. はじめに

高校は学習内容が膨大なため、講義形式で生徒が一方的に聞く授業が多い。しかし、それでは単調な授業となりやすく、そうした授業の中で教員が話す雑談は、単調さを解消する一種のカンフル剤となっている。

この雑談について松原（2005）は「心に残っている雑談に対する感想・その後の影響についての質問への回答を因子分析した結果、『理解の促進・授業への意欲』『将来展望への影響』『信頼感の形成』などの因子があることが明らかにされた」として、雑談には授業本題への好影響があると述べている。私はこの、雑談の要素があり、授業内容とも関連がある新たな教員の働きかけとして、授業に関連した落語をすることで、学習効果を高める「落語教授法」を提案したい。

## 2. 研究の目的

### （1）落語教授法について

授業内で実施する落語を「創作授業中落語」と呼び、その授業時間の通常授業と合わせ1時間のパッケージとしたものを落語教授法と定義した。また、「創作授業中落語」の定義は次の①～③とした。

- ① 落語であること（最後にオチを持つ物語を、教員1人で語る。）
- ② 5分程度であること（授業本題の時間もあるので、それほど多くの時間を割けない。また、長すぎると実施者の負担が大きくなる。）
- ③ 授業内容に関連があること

先行研究については、落語を見て伝統文化や歴史、歴史的表現を学ぶという研究は散見

されるが、授業者が授業内容を盛り込んだ落語を自作し演じるという研究は、今のところ見つけられていない。

### （2）目的

「創作授業中落語」は、インタレスト（授業内容）とエンターテイメント（落語の特徴）の要素を含み、前者は学習促進効果、後者はリフレッシュ効果（気分転換）の機能を有すると予想される。この研究の目的は、上記2つの効果を検証するとともに、これ以外の可能性を検討することである。なお、以後の「創作授業中落語」はすべて落語と表記する。

## 3. 研究の方法

### （1）対象

- ①対象校 : A県内公立B高等学校2年生
- ②授業実施期間 : 平成26年5月～12月
- ③研究法 : 2年生1クラス（15名）の「生物基礎」の35回の授業の中で、24回落語教授法を実施した。演じた落語はすべてWordファイルに残すとともに、音声データの保存に努めた。

## 4. 効果の検証

### （1）授業ごとの質問紙による検証

各回の落語に対する評価は質問紙で行った。質問紙は落語実施前に配布し、授業終了直前に回収した。回収時を落語直後ではなく、授業終了直前としたのは、授業において落語がどのような効果があるかを授業全体を通して生徒に判断させるためである。なお、質問紙の内容は表1の通りである。

表1 質問紙の内容

|                                                                               |
|-------------------------------------------------------------------------------|
| <p>質問① 授業におけるリフレッシュ効果はありましたか。</p> <p>なかった／あまりなかった／どちらともいえない／少しあった／あった</p>     |
| <p>質問② 授業の学習に役立ちましたか。</p> <p>役に立たなかった／あまり役に立たなかった／どちらともいえない／少し役に立った／役に立った</p> |
| <p>質問③ 落語としての完成度(落ちがある、面白い等)はどうか。</p> <p>低い／やや低い／どちらともいえない／やや高い／高い</p>        |
| <p>質問④ 自由記述</p>                                                               |

### (2) 定期試験時の自由記述による検証

私が担当したクラスは、教育課程が他クラスから独立しており、定期テストの問題も他のクラスと合わせる必要がなかったため、私が作問した。テスト解答用紙に自由記述欄を設け、その記述内容から授業改善を図る取り組みをする教員に倣い授業や落語の感想等を記載する欄を設け、その記載内容から落語教授法の効果を検証した。

### (3) 授業者の生徒観察等による検証

落語中の生徒の笑いや拍手などの反応、授業中や休み時間の生徒の様子、授業中に解かせた課題の成果等から、落語教授法の効果を検証した。

## 5. 実践事例

### (1) 授業展開例

落語の授業内のタイミングは、どこでもよいと思われるが、先行オーガナイザーを期待して使用する場面が多かったため、授業開始直後に実施することが今年度（H26年度）は多かった。表2に示したのは、授業開始直後に落語をした時の展開例である。

表2 授業展開例

| 時間        | 教授活動                     | 学習内容                             |
|-----------|--------------------------|----------------------------------|
| 3分<br>導入  | 前時の授業内容を確認する。            | 教員の質問に答えながら前時の学習内容を思い出す。         |
| 42分<br>展開 | 落語（5分）                   | 前時の復習や本時の学習内容の大枠（先行オーガナイザー）をつかむ。 |
|           | 本題<br>学習内容を説明しながら板書を進める。 | 板書をノートに写しながら、説明を聞き、学習内容を理解する。    |
| 5分        | まとめ                      | 本時の学習を整理する。                      |

### (2) 落語実践事例

（実線の下線部はインタレスト、破線の下線部はエンターテイメントの箇所である。）

#### ①11月13日の落語教授法実践の事例

**落語の概要：**（マクラ）江戸時代の庶民は寒い冬は大変だったのではないかと。（本題）暖をとる火鉢まで売ってしまったことを嘆く権太のもとへタヌキが恩返しにやってくる。寒さを何とかしてくれという権太は、タヌキの呪文で毛深くされてしまう。毛深くなったことを驚く権太に、タヌキは、体毛があると暖かい理由や、交感神経が昂ると体温を上げるホルモンが分泌されると話すが、権太は毛深いと異性にもてなくなると気落ちする。気落ちしている権太にタヌキは、沖縄では毛深い男性の方がもてるからと沖縄への転居を勧める。（オチ）沖縄は暖かいので毛深くなった意味がないと嘆く。

**学習分野：**自律神経による体温調節

**その他：**話を身近に感じられるよう1か月後に控えた沖縄修学旅行に触れた。

#### ②12月11日の落語教授法実践の事例

**落語の概要：**（マクラ）沖縄には様々な見どころがありますが、毒蛇のハブには気をつけてください。（本題）修学旅行から帰ってきた弟は、姉に沖縄で担任の先生がハブにかまれて大変だったと、その時の状況や、へびを

取ってくれという先生に対し、写真か動画を撮るのかと勘違いして怒られてしまったことなどを伝える。(沖縄の場面になる)ヘビに襲われた時、助けようとしなかったことを怒る先生をなだめようと、弟は先生に代わって保健所に電話をかける。その電話の中で、血清の作成方法や効果等について話すが、電話が長すぎたために、先生は毒が回って気を失ってしまう。結局、弟がタクシーで先生を病院に運び、事なきを得た。先生は、搬送先の病院で意気投合した看護師とお付き合いすることになる。(オチ)ハブに噛まれたことが縁で、お付き合いの相手ができ、先生にとっても良い日が来そうだね、Have(ハブ) a nice day.と姉が言う。

学習分野：免疫を治療に応用した事例紹介。  
その他：①同様、沖縄修学旅行に触れた。

## 6. 検証結果

### (1) 授業ごとの質問紙による検証

#### ① 図1～3の結果より

図1～3は、表1の質問①～③をグラフに表わしたものである。グラフの左にあるラベルは、「日付・落語の場面設定分類」である(7. 考察参照)。

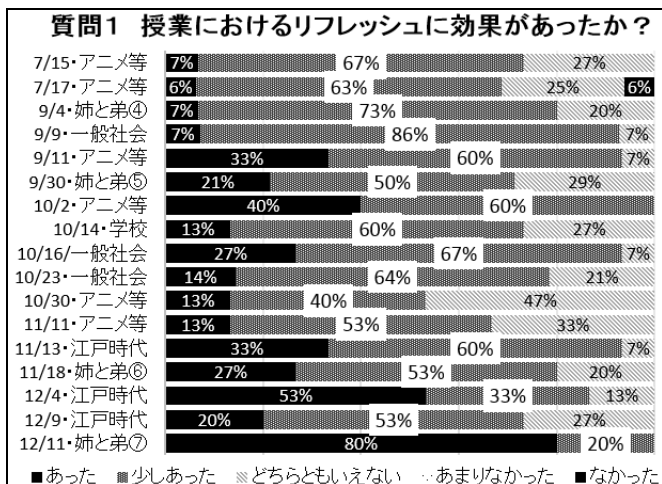


図1 「リフレッシュ効果」に対して

図1について、何をもってリフレッシュ効果と捉えるかは生徒の判断に任せたが、私の

リフレッシュ効果に対する認識は、勉強とは一切関係なく、気分転換をするというものである。学校現場では、授業中に眠そうにしている生徒を見かけることがあるが、そのような生徒に対して、笑いで気分転換をさせようというのが、そもそものリフレッシュ効果の狙いである。

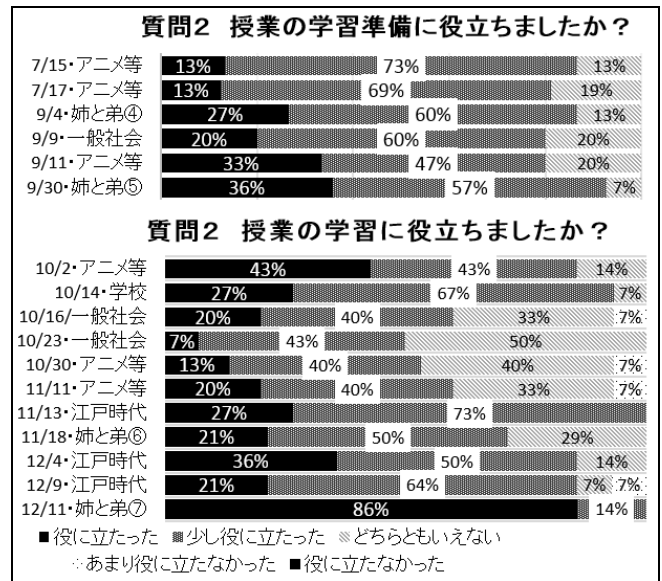


図2 「授業の役に立ったか」に対して

図2より、10月2日以降は質問から「準備」という文言を除いた。理由は、学習のまとめとして授業の後半に落語を入れるケースも想定でき、準備だけに限定されないと思ったためである。なお、私自身、過去に落語を実践した経験は無く、この研究内容が決まってから落語を練習しだした素人である。それにもかかわらず、リフレッシュ効果と学習の役に立つ作用(学習促進効果)は、私の落語が今以上に稚拙であった初期の頃から、ある程度はあるという結果が出ている。つまり、落語未経験者であっても、実践しさえすれば、リフレッシュ効果、学習促進効果を、ある程度出せるということになる。

図3より、9月4日以降、それまでなかった「高い」の評価が付くなど、その日を境に生徒からの評価が高くなっているが、これは、落語の中でマクラを話すようにした影響が出

ていると思われる。

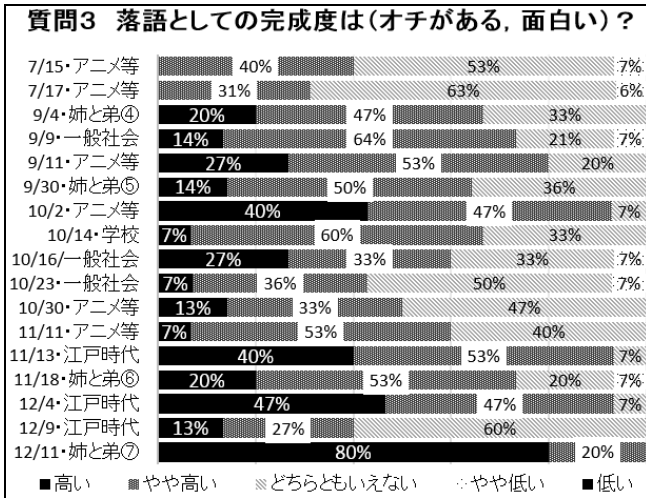


図3 落語の完成度に対する質問に対して

マクラとは、落語本題の前にする日常的な話題のことであるが、このマクラがあることで、「授業をしている日常」と「落語のフィクションの世界」がスムーズに接続され、抵抗感なく落語を聞くことができるようになる（授業文脈の一貫性）。また、完成度については、一進一退を繰り返しながら少しずつ良くなっていったと読み取れる。

②各質問項目の比較から

図1と図3との関連から見て取れるように、落語としての完成度とリフレッシュ効果には、ある程度相関があり（相関係数  $r=0.92$ ）、図2と図3から見て取れるように、完成度と学習への役立ちには、相対的にはそれほど相関がない（相関係数  $r=0.75$ ）ということが読み取れた（ただし、サンプル数が少ないことに留意）。落語には、インタレスト（学習要素）とエンターテイメント（笑いの要素）があるが、その両方が強く発揮される落語の作成は難しく、たいていは一方のみが強く表れた落語となってしまったことが今年度の反省であり、両者が融合した話をコンスタントに作ることは今後の課題である。

（2）定期試験時の自由記述欄による検証

事例1：リフレッシュ効果について

落語に関して次のような記載があった。

授業でやっている落語がおもしろくて、いつも楽しみにしています。落語をやったから授業に入ることで授業中、「落語でいたまた！」と思えば、授業に興味を持てました。

図4 生徒Aによるコメント

あまり好きな単元じゃなかったのですが授業は毎回楽しいです。

図5 生徒Bによるコメント

エンターテイメント性によって生じるリフレッシュ効果に対する、私の認識は先に述べた通りだが、この記載から「授業者への親しみやすさを生む」、「学習内容に対する嫌悪感を拭い去る（学習に対する内発的動機を高める）」等の効果もあったと読み取れる。

事例2：学習促進効果について

定期試験(11月25日)に「フィードバック」と答える問題を出した。これは前回の定期試験(10月7日)の出題範囲のため、その回の試験範囲の教科書や問題集では重要事項とは扱われておらず、そのため、テストではほぼ出来ていないであろうと予測していたが、その予測に反して多くの生徒が正解していた。この疑問を解明する手がかりとして、次のような記載があった。

今回のテストはむづかしかったです。 ←  
全然頭に入ってこなかった。 ←  
シャイアンがハロウィンにやる落語を ←  
ちょっと思い出してできたと思います。79分。

図6 生徒Cによるコメント

落語でやった内容(特に落語の中は重要語句など)がテストに出たりすると、意味と覚えているので、わかりやすく記入してほしい。

図7 生徒Dによるコメント

最近の落語はワレドアップしてとても面白いです。  
 次回も楽しみにしています。  
 重なる言葉をもと押したほうが良いと思います。

図8 生徒Eによるコメント

これらのコメントは10月30日の落語(図9)の中で使った「フィードバック」という用語が、11月25日の定期試験時にも記憶に残っていたという事を示している。

ドラえものの道具を使って、日頃のジャイアンの横暴さに仕返をしていたのび太に対して、静ちゃんが「もうこれ以上、剛さんを傷つけないで」と訴える。自分の唯一の理解者だと思っていた静ちゃんにそのように言われてショックを受けたのび太はドラえもん「どうしよう。静ちゃんから、こんなフィードバックが返ってきちゃったよ。」と助けを求める。

図9 10月30日の落語の部分説明

授業の本題前に入れた落語はあくまで先行オーガナイザーとしての役割しかないと私は捉えていたが、生徒の中には、その落語がきっかけで長期保存の記憶として残ったものがいたということが推測できる。

**(3) 授業中の生徒観察等による検証**

**事例3：学習促進効果について**

表3は昨年度まで私が実施していた生物基礎の「体液性免疫」の授業展開であり、図10は学習のために用意したプリントである。

表3 去年までの体液性免疫の展開

| 生徒の活動                                          |
|------------------------------------------------|
| ① 教員の説明を聞きながら、プリントの図の不足部分を描き足し、学習内容を理解する。(15分) |
| ② プリント(図10)を暗記する。(5分)                          |
| ③ 配布されたA5白紙に暗記した図を描く。(15分)                     |
| ④ 用紙を友人と交換し採点する。採点者は図の不足を描き足す。採点者は、自由          |

にコメントを書き加えても構わない。その自由な書き込みを楽しみにしている者もいる。(5分)

図10の流れを理解させることが、この時間の目標であり、昨年度までは、プリントや説明方法を工夫することで理解しやすいようにしていた。この授業のもっとも重要な学習目標は表3の③の暗記した図の描き出しができることであり、生徒がより再現性の高い図を描けることを意識して①の説明を行っていた。

教科書の文章や図は正確ではあるが複雑であり、それらをより理解しやすく暗記しやすいようにとの意図で、細胞等をキャラクター化したプリント(図10)を用意した。

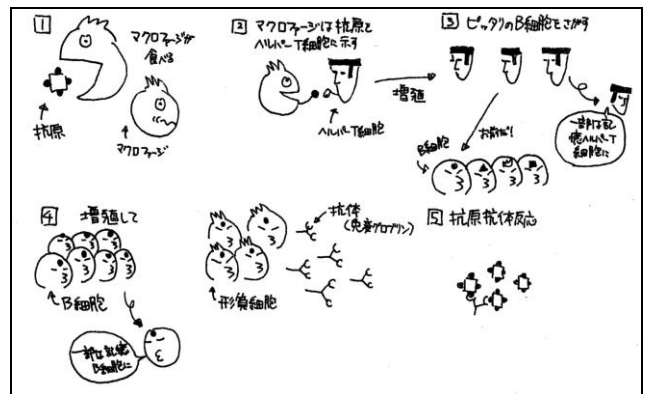


図10 授業プリントの暗記させる部分

そして、今年度はさらに授業の展開(表3)の前に落語を入れ、落語教授法の展開とした。このとき入れた落語は、理解の一助となることを意識して学習内容のアナロジーとなるストーリーとした。キャラクター化や4コマ漫画的な視覚に訴えるプリントと、場面や登場人物をイメージしやすく、ストーリー性をもった落語の効果が合致し、学習促進の効果が出たと考えられる。なお、その時、生徒が暗記して描いたものを図11、12に示す。

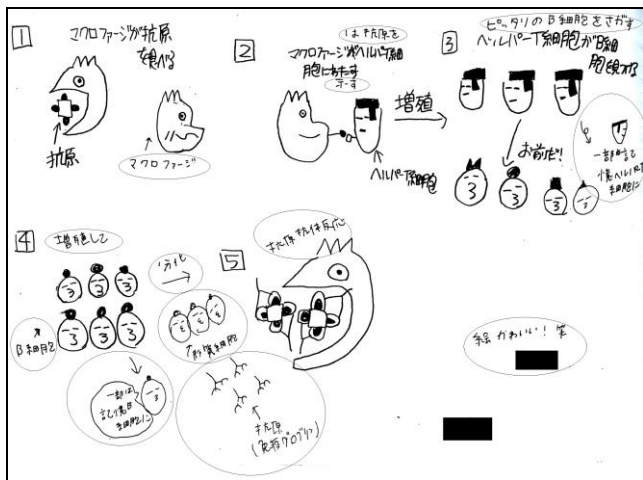


図 11 生徒 F による課題用紙



図 12 生徒 G による課題用紙

ここで、生徒 F を選んだ理由は生物が得意という程ではないが個性的な絵を描くセンスがあり、図を暗記して描かせるという授業展開が合致していたと思われた生徒だからであり、生徒 G を選んだ理由は図の中に興味深いコメントがあったためである。なお、図中の○で囲まれた部分は、表 3 の展開の④にある採点者が書き加えた内容を示しており、○で囲まれていない部分は、生徒 F, G がそれぞれ描いた内容である。

図 12 の中心部に生徒 G による「絵にとらわれすぎて言葉覚えてない」という書き込み、および採点者による「それな(若者言葉で「そうだね」「その通りだ」と同意を表す語)」という返答があるが、これは、文言の細部までは覚えられなかったが、図形はかなり覚え

られたと捉えることができる。落語の効果の程度や、理解促進に効いたのか、それとも印象の強い記憶となることに効いたのかは測れないが、少なくとも私の予測をはるかに上回る図を生徒は描いており、落語によって学習の促進が図られたと思われる。

## 7. 考察

### (1) 場面設定について

実施した 24 回の落語教授法で設定した場面を以下の 5 つに分類した。なお、実施回数の分布は図 13 の通りである。

**姉と弟：**しっかり者の姉ととぼけた弟のやり取り。弟の勘違いを姉が正すのが主な流れ。弟が落語教授法をするクラスの生徒と同年代(高校 2 年)になるように設定した。

**科学者や研究者：**グリフィスやエイブリーなどの実在の研究者が研究時に話していたであろう話を演じた落語。

**アニメ・物語：**生徒にとって既知の『ドラえもん』や『走れメロス』などの舞台や登場人物を演じた落語。

**一般社会：**男子高校生 2 人のやり取り、宅配便業者と客の駆け引き、父と娘の葛藤など様々な生徒の日常生活に即した場面設定のもとで演じた落語。

**江戸時代：**古典落語によく登場する町人や侍などのやり取りの話。今年度はタヌキの恩返しを模した話を中心に実施した。

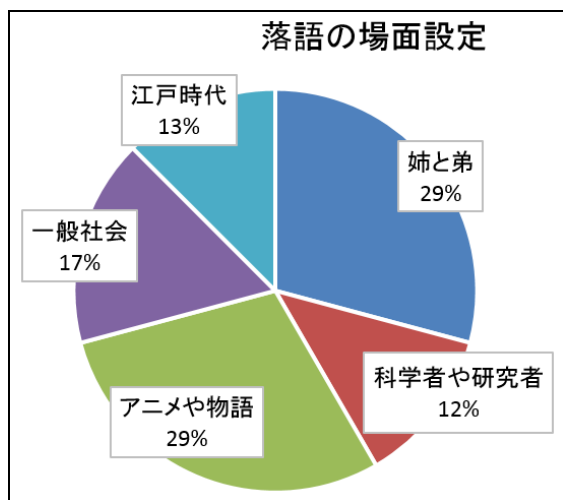


図 13 落語の場面設定による分類

この5つの場面設定の中で、最も生徒からの反応が悪かったのは、**科学者や研究者**であった。これは、登場人物が科学者で、会話も科学的であるためにインタレストが強く出過ぎたためと思われる。図 1～3 にこの設定の落語がないのは、質問紙開始（7月15日）以前に、この場面設定が不評であることが分かっていたので、7月15日以降は一度も、この設定の落語は実践しなかったためである。反対に好評であったのは**アニメや物語**のような既知の人物が登場する落語であった。既有知識の落語が好まれた理由としては、例えば『ドラえもん』であれば、ジャイアンは乱暴者、のび太は弱虫というように、登場人物のキャラクターや人間関係が既知であるため、落語の場面を想像しやすいということが挙げられる。逆を言えば好評となる落語の条件として、場面を想像しやすいように登場人物の個性が明確であることが挙げられる。今年度は「しっかり者の姉ととぼけた弟」という姉弟が登場する落語を頻繁に演じてきたが、回数を重ねるうちに、評価が高くなっていった。これは何度も演じるうちに、この姉弟のキャラクターや関係性が既有の知識となり、生徒が場面を想像しやすくなったことが考えられる。このように、同じ設定の話を何度も実践することは、落語教授法の効果を上げること

に有効であると考えられる。

## （2）印象の強い記憶になることについて

事例 2 は、前回の試験範囲の用語が落語に出てきたことにより、学習内容が落語の理解促進に功を奏していたと考えられる（図 14 左向き矢印）。

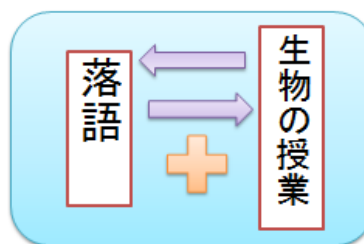


図 14 落語と授業の関係

また、事例 3 の授業では、実施した落語は、その内容が学習内容のアナロジー（類比）となるように作成していた（表 4）。

表 4 落語と授業の対応関係

| 免疫にかかわる細胞・物質 | 落語の登場人物    |
|--------------|------------|
| 抗体           | 手袋         |
| 抗原           | カニ         |
| ヘルパーT細胞      | 子タヌキ       |
| B細胞（形質細胞）    | 親タヌキ       |
| マクロファージ      | 権太（落語の主人公） |

落語があることによって、学習理解が促進される（図 14 右向きの矢印）だけでなく、アナロジーであることによって、落語の理解と学習の理解が結び付き（図 14 のプラス）、その2つの作用によって、より理解が進み、構造化された知識体系になり、印象の強い記憶となったと考えられる。

つまり、私が学習促進効果と捉えていたものの正体の1つは、印象の強い記憶となる事であり、その要因は、図 14 のように、落語と授業内容を双方向に行き来する理解、さらには両者を結び付ける理解という事といえる。

## （3）落語であることの必然性について

落語は、ストーリーがあるので話が頭に残

りやすく、また、ストーリーを自作できるので、上記のアナロジーの機能と相俟って学習内容をはめ込むことができ、そのため構造化された知識となりやすい。

さらに、エンターテイメントには気分転換（リフレッシュ）の効果があると同時に、エンターテイメントであるために、生徒たちは普通の授業以上に真剣に聞く。集中して落語を聞くことによってストーリーの中にはめ込まれた学習内容は、より強く頭に残る。インタレストとエンターテイメントの2つの要素が、兼ね揃うことで、リフレッシュと学習促進の2つの効果が相乗的に作用する。

また、落語のストーリーにはめ込める内容には、学習内容だけではなく、修学旅行や競歩大会などの身近な出来事もありうる。身近な出来事を入れ込むことで、上記のエンターテイメントと同様、真剣に聞くようになるとともに、フィクションである落語のストーリーが、まるで友人に実際にあった出来事のように受け止めることができ、結果として、エピソード記憶になりやすい。このことも、印象の強い記憶となることに寄与している。

つまり、エンターテイメントとインタレスト、さらには身近な出来事までも1つのストーリーに盛り込めるという特徴が落語にはあり、これこそがまさに落語であることの必然性であるといえるのではないだろうか。

## 8. おわりに

### (1) 落語教授法の名称について

古典落語と分ける意味で、現代の落語家が創作した落語を創作落語と呼ぶが、私が今年度実践した落語も創作落語の1つと考えている。創作落語であり、授業中に行うことを前提にしているので「創作授業中落語」と命名した。

### (2) その他

紙面の関係で省略したが、記載された以外にも落語教授法には様々な有効性があり、非

常に面白い教授法であると思う。次年度は、さらに今年度取り上げなかった他の有効性についても、検証していきたいと考えている。

この報告書を読まれたり、フォーラムでの発表を聞かれたりして、この落語教授法をやってみようとする教員が1人でも出てくることを期待している。私は、高校の生物でしか落語教授法を実践できないが、様々な教科や学校で活用され、より多くの先生に関わっていただきたい。もう少し詳しく聞きたい、やってみようかなと興味を持たれた方は、以下のアドレスにメールを頂きたい。

odakisitu@yahoo.co.jp

## 9. 参考・引用文献

- 浅島誠 ほか(2011). 生物基礎 東京書籍  
平安寿子 (2010). こっちへお入り 祥伝社  
松原志保 (2005). 教師による授業中の雑談がもつ教育的機能. 日本教育心理学会 総会発表論文集, 47, 296.  
西林克彦 (1994). 間違いだらけの学習論 新曜社  
野村雅昭 (1994). 落語の言語学 平凡社  
作間慎一(1999). おもしろさとは何か. 授業を考える教育心理学者の会 (著). いじめられた知識からのメッセージ 北大路書房, 90-101.  
春風亭昇吉 (2013). 東大生に最も向かない職業 祥伝社  
立川談四桜 (2014). 一流の人はなぜ落語を聞くのか KKベストセラーズ  
柳家花縁 (2008). 落語家はなぜ噺を忘れないのか 角川SSC新書